

2015年5月13日

2015年度の鉄軌道事業設備投資計画
ホームドア設置や駅機能の向上などに総額482億円
安全に対する取り組みを着実に進めながら、快適で便利な駅空間の実現に向けて

東京急行電鉄株式会社

◇ホームドア設置工事を10駅で着手する他、踏切安全対策として3D式障害物検知装置を15カ所に導入
◇高架橋やトンネルなどの長寿命化工事に加え、異常気象を考慮したホーム屋根補強工事の推進
◇「駅をより快適で便利な空間へ」を目指し、新しい価値を生み出す駅づくりを推進

当社は、2015年度に鉄軌道事業で総額482億円の設備投資を行います。本年3月27日(金)に発表した、「中期3か年経営計画“STEP TO THE NEXT STAGE”」の重点施策である「安心感と満足感のより一層の充実」の実現に向け、ホームドア設置工事や踏切安全対策をはじめとする更なる安全対策とサービス向上に取り組みます。安全・安定輸送を支える安全対策に237億円、お客さまが快適で便利にご利用いただける駅づくりを目指すサービス拡充に245億円を投資し、全てのお客さまがいつでも安心して快適にご利用いただける鉄軌道事業を展開していきます。

○鉄道運転事故・輸送障害を防止するホームドアの設置と踏切安全対策

従来のホームドア設置計画を大幅に前倒しし、2020年を目標に東横線・田園都市線・大井町線全64駅にホームドアを設置します。今年度は、東横線菊名駅、大井町線溝の口駅など10駅で工事に着手し、輸送障害の8割を占める列車との接触事故を防止するなど、日々安定した運行が可能な路線の実現に努めていきます。

また、踏切の安全対策として、緑が丘～自由が丘駅間など15カ所に3D式障害物検知装置を設置し、踏切内の検知機能を更に向上させ、踏切事故を減らします。

○長寿命化工事・施設更新・ホーム屋根補強工事などの減災対策

東日本大震災を契機とした自然災害への更なる対応や、高度成長期に集中的に整備された社会資本の老朽化から、万一の災害時であっても安全に利用できる鉄道施設を目指します。高架橋やトンネルなど、土木構造物の長寿命化工事を引き続き行います。五反田駅などの駅改良工事やあざみ野駅などのホーム屋根葺き替えなどの施設更新も行い、鉄道施設の総合的な健全性向上を図ります。また、ホーム屋根については降雪などの異常気象を考慮し、補強工事を順次進めていきます。

○駅をより快適で便利な空間へ

駅構内の案内サイン増設やステーションコンシェルジュを拡充し、さらに快適な駅空間づくりを推進します。更に、駅と地域を繋ぐ機能を強化し、暮らしを豊かにするサービスを展開するとともに、駐輪場やバスへの乗り継ぎ利便性の向上を図り、利用しやすい交通網を整備します。

また、全駅のバリアフリー経路は整備されていますが、より快適で便利にご利用いただけるよう、エレベーター・エスカレーターの新設・増設など、シームレス化を推進します。

2015年度設備投資計画の詳細は別紙のとおりです。

【別紙】

2015年度設備投資計画の詳細

1. 鉄道運転事故・輸送障害を防止するホームドアの設置と踏切安全対策

お客さまに日々安心してご利用いただくため、事故・障害が起きにくい環境づくりを引き続き行います。ホームの安全対策としては、国土交通省の指針を踏まえながら、内方線付点状ブロックや非常停止ボタン、ホーム安全柵の設置など、これまでもさまざまな安全対策を実施してきました。今年度から抜本的な対策であるホームドアの設置を加速させます。また、踏切安全対策として、現行の障害物検知装置よりも機能を向上させた3D検知が可能となる装置を順次導入することにより、接触事故を大幅に減らし、長時間運休することのない路線を目指します。

- ① 田園都市線の6ドア車45両の4ドア車への置き換えを開始し、車両のドア位置の課題を解消することにより、従来の設置計画を10年以上短縮します。今年度は、東横線菊名駅(下り)、大井町線溝の口駅などの10駅に工事着手します。



武蔵小杉駅ホームドア

■2015年度ホームドア設置工事着手駅一覧

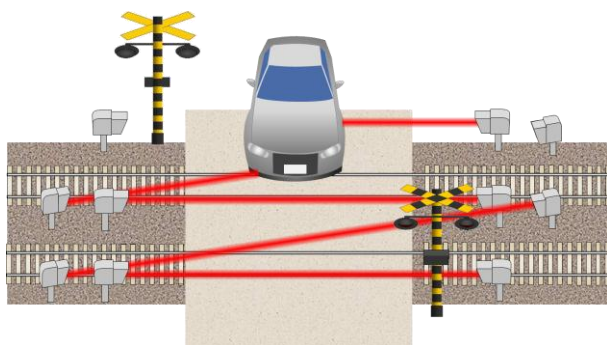
【東横線】都立大学、新丸子、元住吉、大倉山、菊名(下り)

【田園都市線】宮前平

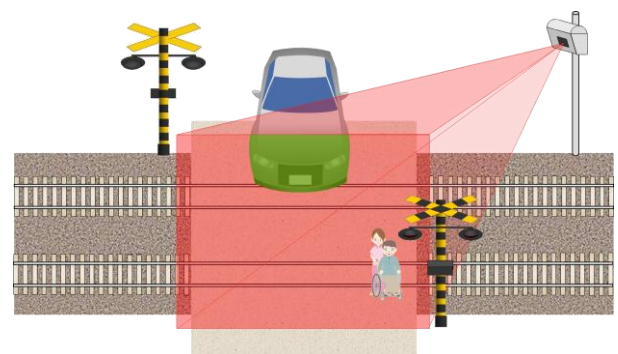
【大井町線】溝の口

他3駅着手予定

- ② 踏切安全対策として、昨年度から、踏切内を立体的に検知できる3D式の踏切障害物検知装置の設置を開始しています。今年度は、妙蓮寺～白楽駅間などで光線式から3D式へ更新するほか、緑が丘～自由が丘駅間の未設置場所への新設を含め、15カ所への設置を目指します。東急線内における全ての踏切では、非常停止ボタンの設置が完了していますが、今後は更なる踏切事故防止を目的とし、光線式の障害物検知装置が既に整備されている場所も含め、こどもの国線・世田谷線を除く全ての踏切に3D式の障害物検知装置を順次導入していきます。



光線式の障害物検知装置



3D式の障害物検知装置

2. 長寿命化工事・施設更新・ホーム屋根補強などの減災対策

昨年度は降雪期における安全輸送の確保に向け、積雪センサーの8カ所新設や分岐器の融雪器増設などに取り組みました。今年度も、降雪などの異常気象を考慮したホーム屋根の補強工事の更なる推進を図ります。

また、高架橋・橋梁・トンネルなど土木構築物の長寿命化工事や菊名駅・五反田駅などの駅改良工事、あざみ野駅などにおけるホーム屋根スレート葺き替えなどの施設更新も行い、引き続き鉄道施設の総合的な健全性向上に取り組みます。地震発生時の対策では、倒壊の恐れがある「せん断破壊先行型」の高架橋柱について引き続き対策を進めていきます。これに加え、さらなる対策として、倒壊の恐れはないものの損傷が発生する恐れのある高架橋柱の耐震補強対象範囲を広げるとともに、盛土や擁壁などの土木構造物などについても耐震検討を着手し、対策を推進します。



駅の改良工事(菊名駅)

3. 駅をより快適で便利な空間へ

駅を中心としたさまざまな環境の整備をおこない、全てのお客さまがより快適で便利に鉄道をご利用いただくためのサービスを展開していきます。

- ① 渋谷駅では、分かりやすくお客さまに駅を利用していただくため、案内サインを見直します。併せて、ご好評いただいているステーションコンシェルジュによるご案内と、駅構内・駅周辺・乗り換え案内などのコンテンツを搭載したお客さま操作型タッチパネル7台に加え、さらなる案内機能の強化を行います。ステーションコンシェルジュについては、渋谷駅構内での増員を進めるとともに他駅への展開を進めていきます。
- ② 駅構内のリニューアルや拡大に合わせて、各エリアの特性を生かした駅づくりを進めます。また、都立大学駅における駐輪場の新設などをはじめ、駐輪場やバスへの乗り継ぎ利便性の向上を図り、利用しやすい交通網を整備します。



渋谷駅改札内地下4Fカウンター



駅構内リニューアルイメージ(市が尾駅)

- ③ 当社線では、段差の解消が必要とされる全ての駅では、バリアフリー経路をすでに整備完了していますが、更なるシームレス化を進めます。用賀駅や宮前平駅などにエスカレーターを新設するほか、菊名駅などでは、複数のバリアフリー経路を確保するため、エレベーターを増設します。また、雨の日でも快適にご利用いただけるように鷺沼駅、たまプラーザ駅などでホーム屋根を延伸します。



エスカレーターの増設(横浜駅)



ホーム屋根延伸(自由が丘駅)

- ④ 国際化・情報化社会の進展にあわせた案内の多言語化や異常時の迅速かつ正確な情報提供など、駅構内や車内における情報環境の整備を推進します。
- ⑤ 現在、東横線祐天寺駅では、2016年度の供用開始に向け、通過線整備工事を着実に進めています。通過線整備を予定通り竣工させることにより、所用時分短縮による、速達性向上を実現させ、より便利な路線を実現します。

以 上